

●桂川（保津峡 嵐山）での竹蛇籠製作講習会無事に成功 10日24人、15日28人、16日12人の参加 6本の竹蛇籠出来上が、総勢68人の参加がありました。

これまで5年間蛇籠づくりに挑み続けてかなりのみなさんが体験を重ねてきました。今年はその成果を初心者の方々に技術の伝承することになったの取り組みです。里山の会で経験済みの皆さんの実力が試されました。



原小組さんを訪ねたのは2015年の夏で、京都において頂いて指導を受けたのは3回（3年間）でした。そして自力で中聖牛を作り上げられるようになって3回で、不安がありながらも形づくりができるところまで技術を受け継げるところまでできました。今回2022年度は自分たちの到達した所を示すチャンスとして取り組みました。決して教えられるほどの腕前に自信がありませんでしたが、ご参加いただいた皆さんとともに四苦八苦しなながら取り組んだものです。

基本的には三本の竹を組み合わせていく至極単純な作業の繰り返しの連続作業なので誰でも簡単にできるものです。ところが実際に7mの竹を曲げて組み合わせてみると、思っていた通りの手順では進められなくて、手詰まりに陥ってしまいます。そこで間違っていたところまで戻って手直ししての組みなおしになります。初経験者には手順通りに確認をして進めているつもりでも大きな長い材料を振り回しているうちに手順を間違えて進めてしまっていることになってしまったり一巡してくると間違っていることに気付くのです。これの繰り返しをしながらの取組をやってきました。まさに試行錯誤の繰り返しでした。こうして手作業を理解してゆくのでしょうか。

初日は寒い気候でした。二日目は素晴らしい真夏日の気温でした。そして三日目は最高の天気に恵まれて、むしろ体力が続けられないほどの河川敷広場での取り組みになりました。秋の絶好の日和で三連休のうち二日も出かけていただいた皆さんはいかがだったのでしょうか。本当にご苦労様でした。これまでは作る側の立場でしたが、指導する立場に変わっての経験・学びや多くの得た良い経験だったのではなかったのでしょうか。ここで得たものを活動に生かしていけば、里山の会の活動がさらに充実発展していくことなのでしょう。



●製作講習会の三日目に京都先端科学大学から二名の学生さんが大学の教授からたびたび里山の会の活動が紹介されていたので、今回初めて竹蛇籠製作講習会に参加をしたと朝早くから参加していただきました。これまでは主に京都大学の学生さん、外国の留学生（チュニジア・中国・アルバニアなどの方）たちでした。京都先端科学大学は京都府京都市右京区山ノ内五反田町 18. にメイン学舎があって、亀岡にも学舎があるとのことでした。ホームページから里山の会の活動を紹介されているとのことでした。

●**摂南大学に新設が正式に許可された 現代社会学部 現代社会学科です。**学部の特徴として2 番目に掲げられているのがフィールドアクティブ・ラーニングによる主体的な学びとされ、その学びの場としてポレポレランドや里山農園に協力が要請されてきました。まだ内容はこれからだということですが、とりあえず学校側から担当教員（稲生氏）が 10 月 31 日午後からご挨拶にお越しになるとの連絡がありました。

●小川芳也さんの松江通信 No. 3

先週は、木津川が砂河川と言われる原因について記載しました。今回は斐伊川について触れたいと思います。斐伊川の源（源流）は島根県仁多郡奥出雲町の船通山（鳥取県との県境）です。中国山地を流下して出雲平野を東流して宍道湖、大橋川、中海、境水道を経て日本海に注ぐ流域面積 2,540 km²、幹川流路延長 153km です。行政で表現すると、島根県仁多郡奥出雲町、雲南市、出雲市、松江市を貫流して安来市、鳥取県米子市、境港市を経て日本海となります。年間降水量は約 1,900mm と全国平均に比べて多雨地域で日本海型気候に属していますが、冬の降水量が多い・夏に降水量が集中する傾向があることから「山陰型気候」or「準日本海型気候」とも言われています。斐伊川水系の山地は、木津川と同様に花崗岩が分布していますので脆く崩れやすい特徴を有しています。この続きは次回に・・・



斐伊川流域図（参照：国土交通省 HP）